



肺がん診療は市立青梅総合医療センターに お任せください！

いつも患者さんをご紹介いただきありがとうございます。
肺がん診療は、この10年で急速に発展しています。診断後、早期に亡くなる病気ではなくなってきました。肺癌診療ガイドラインも頻繁に更新されており、最新の治療が日々更新されている状況です。また今まで以上に患者さん個々人に合わせたオーダーメイド治療を求められるようになってきました。今回は、当院での肺がん診療についてご紹介いたします。

■ 診断

腫瘍を生検し、がん細胞の遺伝子検査を行います。
気管支鏡による経気管支肺生検^{*1}（呼吸器内科）、CT/エコーガイド下での経皮針生検（放射線診断科）、外科的生検（呼吸器外科）などの方法で生検を行い、病理診断科にて診断・遺伝子検査を担っています。この4科でのカンファレンスを週に1回開催し、全症例の症例検討を行っています。

＊1 従来の鉗子生検だけでなく、クライオ生検と呼ばれる肺組織を凍結させて採取する生検方法も取り入れています。この生検方法では従来よりも大きな組織を採取でき、確実な診断につなげることができます。大学病院を中心に行われている生検方法で、一般市中病院で導入しているところはまだ少ない手法です。



気管支鏡検査



4科合同カンファの様子

■ 治療

◇手術

患者さんの負担を軽減する胸腔鏡手術やロボット手術などの低侵襲手術を積極的に行っています。(呼吸器外科 副部長 今井 紗智子)

◇放射線治療

早期肺がんに対する定位放射線治療から進行期に対する化学放射線治療や骨転移・脳転移などに対する緩和照射まで、様々な状況に対応可能です。(放射線治療科 部長 星 章彦)



◇化学療法

次々に新しい治療薬が保険承認されています。当院では承認され次第、すぐに使えるよう準備しています。もちろん患者さんに安心して安全に治療を受けていただけるよう努めております。医師・薬剤師・看護師・事務員の連携がスムーズになるよう仕組み作りをし、院内での勉強会も頻繁に開催して皆が最新の知識を持って患者さんと向き合えるよう努力しています。



◇緩和ケア

5月より当院にも緩和ケア病棟がオープンしました。呼吸器内科で長年研鑽を積んだ佐藤謙二郎先生が緩和ケア医として活躍しています。

このように診断も治療も多くの診療科が連携を取って診療に当たっています。呼吸器内科副部長が外来治療センター長も兼任しており、外来でも安心して治療を続けていただけるよう尽力しています。院内では“免疫チェックポイント阻害薬による副作用へ介入するチーム”や“皮膚障害や脱毛などの副作用へ介入するアピアランス・スキンケアチーム”、“仕事と治療の両立を支援するチーム”も外来治療センター長を中心に活動しています。また患者さん向けに、がん診療に関する情報提供を目的に、外来治療センター通信「オリーブ」も毎月発刊^{*2}しています。

^{*2} 当院のホームページからもご覧いただけます。
トップページ>がん診療について>がん診療>化学療法 と検索ください。

■ がんゲノム診療



当院は3月にがんゲノム医療連携病院に指定されました。それに伴い、当院でもがんゲノムプロファイリング検査（がん遺伝子パネル検査）を行うことができるようになりました^{*3}。もちろん保険診療での検査となります。

肺がん診断時に行う遺伝子検査よりも幅広く検索することができますが、検査を行うタイミングとしては治療選択肢が乏しくなった段階に限られています。この検査で新たな治療選択肢を得られる患者さんも3割程度おられますので、非常に有用な検査です。

^{*3} 都内でこの検査を行える病院は大学病院を中心に30施設です。(6月1日時点)

最新の検査・治療、患者さん個々人に合わせた診療を行っている当院に、先生
の患者さんをぜひご紹介ください。責任をもって診療させていただきます。

呼吸器内科 部 長 大場 岳彦

副部長 本田 樹里 (外来治療センター長、ゲノム診療部 兼務)

市立青梅総合医療センター 0428-22-3191(代)